

# 広く市民に開かれた“木と緑のスタジアム”

新国立競技場整備の基本的考え方 一業務要求水準書 第3章 施設整備より

周辺環境と調和し、最先端の技術を結集し、我が国の気候・風土・伝統を現代的に表現するスタジアム

- ・豊かな緑とともに、スポーツクラスターの中心を作り出す。
- ・日本の伝統的文化を現代の技術によって新しい形として表現する。



外観イメージ

## 1 提案 最高高さ 50m 以下に抑え 軒庇の水平ラインを強調

効果 周辺と調和する日本らしい外観を形成 (P23 参照)

- ・8万人収容の観客席をコンパクトに配置し、屋根を低く抑え、**最高高さを50m以下**とし、景観に馴染むよう配慮します。



西側立面図

- ・神宮の大地と親和性を高める **軒庇の水平ラインを強調**し、周辺の木々と調和する陰影のある、日本らしい外観を形成します。

## 3 提案 木と鉄のハイブリッド屋根構造

効果 木のぬくもりで包まれた観客席 (P26 参照)

- ・**屋根構造に木材**を用い、日本の**伝統デザイン**を取り入れたスタジアムを世界へアピールします。



木の集成材と鉄のハイブリッド屋根

## 2 提案 市民の活動をいざなう 「空の杜」「大地の杜」

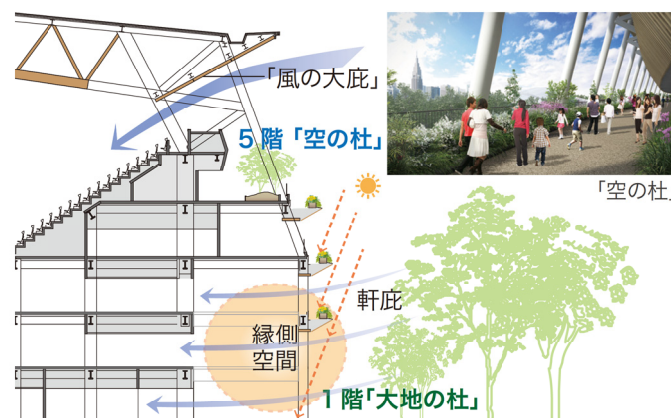
効果 日常的なスポーツと健康長寿命の拠点の創出 (P23 参照)

- ・神宮内苑・外苑や新宿御苑・赤坂御用地・皇居とつながる**緑のネットワーク**を形成します。



- ・オリンピック・パラリンピック競技大会終了後も、**スポーツクラスター**として市民に広く利用されるように、「空の杜」と「大地の杜」を設けます。

- ・植栽を施した軒庇を重ねることで、**強い日射を遮り、風を採り入れ、水を蓄えた**潤いのある快適な環境を創ります。



# 臨場感と見やすさ、競技者の力を引出す“皆のスタジアム”

新国立競技場整備の基本的考え方 一業務要求水準書 第3章 施設整備より

人にやさしく、誰もが安心して集い、競技を楽しむことのできるスタジアム

- ・世界最高のユニバーサルデザインを導入した施設を目指す。
- ・競技者と観客とが一体感のある空間を作り出し、競技者の最高の力を引き出す。



スタジアム内観イメージ

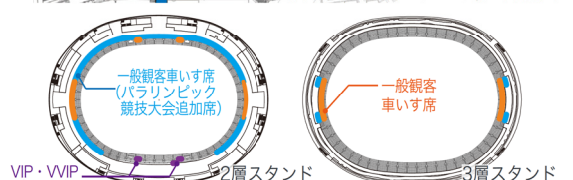
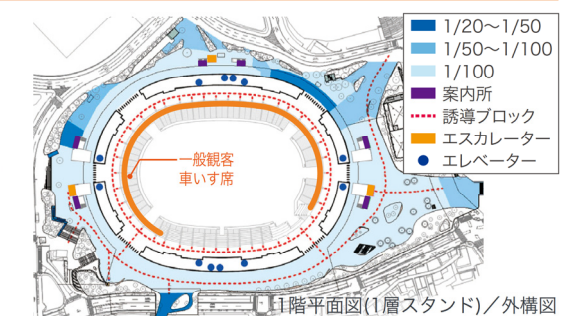
## 4 提案 様々な人のアクセスに配慮

効果 様々な人が「公平で平等な機会」を享受できる 環境の創出 (P18 参照)

- ・世界最高水準の「**行きやすさ**」「**観やすさ**」「**安全性**」「**快適性**」を兼ねそなえたユニバーサルデザインのスタジアムを創ります。

- 行きやすさ: ストレスなく安全に座席まで行けること
- 観やすさ: 様々な人が平等に観ることができ、観客全体で感動を共有できること
- 安全性: 安全に観戦ができ、災害時にはスムーズな避難ができること
- 快適性: 案内や売店、トイレ等のスタジアムサービスを快適に受けられること

- ・敷地内の**段差、勾配は最小**とし、安全なアクセス環境を実現します。建物内については、**フラットかつシンプルな平衡面構成**により分かり易い計画とします。
- ・オリンピック競技大会時、常設で**約450席**を確保し、パラリンピック競技大会時は**簡易なオーバーレイ**で**約700席**の車いす席を計画します。



## 5 提案 競技者と観客の一体感と臨場感の創出

効果 安全で見やすい臨場感の高い観戦環境 (P29 参照)

- ・1層スタンドに観客席を多く配置し、フィールドを包み込むような**360°連続する3層スタンド構成**とすることで、競技者と観客が一体に感じられるスタンド計画とします。



競技大会時イメージ

## 6 提案 アスリートファーストの環境整備

効果 選手の最高のパフォーマンスを引出す競技環境 (P29 参照)

- ・選手が競技の開始から終了後まで**ストレスなく集中力を高める**ことができるように配慮した動線計画とします。
- ・快適で使いやすい**選手関連諸室の充実**を図ります。
- ・芝育成補助システムと**確実な均等散水と排水設備の整備**により、**最高のプレイを引出す強いスポーツターフ(芝)**を実現します。